No 542	<b>投稿者</b> 半分王	タイトル 誰かのためにできること	評価者 一般審査員A	点数 各項目20点満点 情さ 19	鋭さ 17	新しさ 18	ユーモアさ 14	意外さ 17	各計 書評  85 あまり読後感がよくないが、それが怖さにつながっているところもあるので、これでいのかもしれない。誰か信頼できる人を頼るのは本当に大事だということは、十分伝わった。君の感じた恐怖は無駄ではない。結構怖い話だったので、教わった教はおそらく忘れないだろう。夜に読んで、トイレに行くのが怖なるぐらいには怖かた。これはホントにすごいことで、なかなかできることではない。ハイレベルな怪談しかできないことである。ただ、あまりにも絶望的な結末に、実は納得がいってない
542 542	半分王	誰かのためにできること 誰かのためにできること	一般審査員B	14	12	15		13	た。これはホントにすごいことで、なかなかできることではない。ハイレベルな怪談しかできないことである。ただ、あまりにも絶望的な結末に、実は納得がいってない部分もあって、誰か助けてやれよと思ってしまった。まあ、そう思わせるだけの恐怖を見事に書いている。病院で本物に出会うところからはマジで鳥肌が立つ。  65 生き霊から死霊に切り替わる感じは斬新でした。前振りとかをもっとコンパクトにし生き霊から死霊に変わるやり取りをもっと丁寧に描いた方がずっと良くなると思いした。
542	半分王	誰かのためにできること	一般審査員D	17	16	17	17	18	溢れた作品。全体的によくまとまっていて、矛盾なく読める安心できる作品でした。 主人公が見た女性が実は柴田の父親の不倫相手だった。ということに意外性がまて、それが分かった時点で一気に話に引き込まれました。不妊治療までして柴田(父親を奪いたかった女性の執念が醜く自分勝手で、人怖の要素もブラスされてい良かったです。柴田を助けようとした主人公が、この身勝手な女性に負けることな生き続けてくれることを願って止みません。 85 読み終わってから余韻をじっくり味わっていたい作品でした。初めから最後までとしかく悲しくて、苦しくなる内容でした。高校生が抱える問題にしては大きすぎるもののよりに上来を表す。とればきましたは大きすぎるもののよりに上来を表す。とればきましたは表表の思います。
542	半分王	誰かのためにできること	一般審査員E	15	15	10		10	の、大人に上手く頼ることができない年頃であったり情景、心理いずれも描写が分かりやすく読みやすい文体だったのも良かったです。想像していない終わり方だっのでとても驚きました。  65 生き霊の描写の上手さもすばらしいですが、個人的にこの作品の評価したい部分「誰かを救おうとして巻き込まれて共倒れになるパターン」の残酷さをしっかり書ききっている点です。どうすれば、こんな結末にならずに済んだのか。読了後にざらとした感覚になる、生々しくて、つらい素晴らしい怪談に仕上がっていると思いました。
542	半分王	誰かのためにできること	一般審査員F	18	17	17	17	18	87 後藤は柴田に自分と似た境遇を感じて柴田の為に色々と自分が出来る事をしてけたい、と思って実行したのは凄い事だと思う。いくらシンパシーを感じたからといて、自分が辛い思いをしていたら人の事まで思いやれる余裕なんてなかなかないまあ、それでも柴田に比べたら話を聞いてくれて頼れる母親がいるだけ後藤の方まだましだったのかもしれない。でも、頼るのが遅すぎた。柴田の父親と不倫関係あり、柴田を追い詰め、自死へと追いやった女が生き霊から死霊に変わり、柴田けに止まらず、彼と母親を助けようとした後藤にまでその恨みの矛先を向け、また死させようとしているのは怖いし、そこまでやるのか、という所で意外性も感じました。遺書代わりにビデオレターを撮っているのだろうけど、無事に助かる事を祈り
542	半分王	誰かのためにできること	一般審査員G	17	15	16	17	17	た。遺書代わりにビデオレターを撮っているのだろうけど、無事に助かる事を祈りい。  82 切ない…しかし現実として子供ができることは限りなく少ないということが丁寧に打かれています。丁寧な分、トトコワ(得体の知れない母親だと思っていた人)の要がらしっかりとオカルトに切り替わる部分が自然な流れですんなりとお話が入ってました。後藤君・柴田君がお互いに勘違いしていた怪異、正体がはっきりするがも後味が悪いですね。最後の終わり方もまたとても切ない…せめて主人公だけは財かってほしいと願ってしまいます。そうでなくてはお母さんがやりきれません…。文
542	半分王	誰かのためにできること	一般審査員H	11	12	12	9	11	も会話とそうでない部分の接続が自然で読みやすかったです。  *******  ****  ***  **  **  **  **
									べ、まさかの、不価相子の生霊が母親の姿に嫌悲していた。という嫉妬、恣みかいるものとは言え狡猾で嫌な女だなと感じます。ユーモアさ、この点は内容が内容すし、、です。強いて言うなら、「人というやつは全くどこまでも業の深い生きものだ」いう点での可笑しみと哀しみがユーモアに通じるものはある、と言ったところでしょか。意外さ、重複しますが、柴田を最終的に追い詰めた原因が母親の狂乱、などはなく、父親の不倫相手の生霊の影響によるものだった点、途中から死霊に変れた事で「縁切りの人形」が効力を失い、とうとう柴田を死に追いやった点、一人の間がここまで出来るとは。せめて、主人公だけは、女の囁きに抗って欲しいのですが。怨みの矛先を彼にまで向けるのは、お門違いも甚だしいでしょう。胸の悪くな話です。
	半分王	誰かのためにできること	一般審査員	12	12	11		12	話です。  59 柴田の明るさの裏にあんな闇があったってだけでも胃がキリキリするのに、あの。親。の存在が物語を一気にホラー側にねじ曲げてくるのがすごい。怖さとか鋭さの数が高いのも納得で、静かに迫ってくるような不気味さがずっと残る。でも一番刺さったのは「誰かのためにできること」ってテーマ。主人公がまだ子供なのに必死手を伸ばしてる姿がめちゃくちゃリアルで、痛いほど共感する。友情って時に家族り強いんだなって思わされるし、簡単には救えない相手にどう向き合うかの葛藤・に残る。ホラーなのに、優しさと切なさが同時に来る不思議な余韻のある話だった。
No	投稿者かめ	誰かのためにできること タイトル ヘルシー牧場	一般審査員J 合計 評価者 一般審査員A	18 159 怖さ 19	16 149 鋭さ 18	新しさ	145	15 149 意外さ 16	84 逆恨みも甚だしいくらい気分の悪い人怖のだった。読み手に想像がしやすくわかやすい文章になっていたことがとても、よく、特に友人の家での話が良いと思った 753 書評 87 かなりレベルの高い怪談。人間の心情に深く踏み込み、他の怪談のような単なるくて浅いホラーに堕していない。本当に悲しく、そして怖い話だ。ヘルシーのくだりは、おそらくユーモアさを狙ったのだろうが、もしかすると不要だったかもしれない
539	かめ	ヘルシー牧場	一般審査員B	14	13	13	12	13	は、あてらくユーエイを発出されている。から少し、ましかりると不安だったがもれない。全体のおどろおどろしい。雰囲気から少し乖離してしまっている。おじさんの気持ち痛いほど分かってしまうし、狂ってしまったのもわかる。しかし、何の罪もない人が性になるのは可哀想ぎる。このどうにもならなさと絶望感を上手く書いていると思た。それだけに、本筋と関連性が薄い「ヘルシー」が妙に浮いているし、これがタルなのも個人的にはあまり好きではない。  65 最初の方に骨粉砕機が出てきた時点でこれで人を殺すんだなとわかってしまったですが読み進めるで娘さんが亡くなって外国人が罪を犯した時点で展開が全てわかってしまったのはちょっと残念でした。もしかしたら、そこをミスリードさせて意外
539	かめ	ヘルシー牧場	一般審査員C	17	18	15	15	18	展開があるのかなと期待してしまいましたがそのままだったので次回はビックリすようなオチを待ってます。  83 最後の最後に全ての謎が解け、読後がスッキリとする作品でした。わかりやすくててもよかったです。題名の意外性も良かった。さやかさんのお父さんの狂気も理ができる設定で、非常にバランスの良い作品だと思いました。単語のチョイスも理しやすいので、すらすらと読めるのがストレスがなく良かったです。さやかさんがイミナティのペンダントをつけていたことに、オカルト脳が刺激されました。イルミナラのペンダントである必要はなかったと思いますが、こういう遊び心もこの作品の魅
	かめ	ヘルシー牧場	一般審査員D	18	14	17		15	だと思います。  80 じわじわくる怖さがありました。最後の最後にタイトルの意味を回収してなるほど、なりました。部屋に現れた怪異が様々な国の実習生の怨念のようなものだったとたら、都合よく英語に統一されるものか、と少々冷静に見てしまいました。不幸な来事があり心が病むのはやむを得ませんが、無関係な人で発散するのは絶対にされません。生きている人間の方が、怪異よりタチが悪いと改めて思わせてくれる品でした。  60 個人的にタイトル勝ちだと思いました。ポジティブな用語だったので、どれぐらい割
539 539	かめ	ヘルシー牧場	一般審査員E 一般審査員F	10	15	10		10	な内容なのか期待しておりましたが、十分期待をこえてくる設定に最後まで緊張 持って読めました。牧場ののどかな日常描写が丁寧だったからこそ、一気に地獄 突き落とされる構成が見事です。ジャパンホラーというより、海外のホラーみたい 派手めな演出が好きな人には刺さりそうです。 思い切りヒトコワなお話でした。農業実習で訪れた牧場での出会い、そして悲劇。 習先の酪農家の娘さんで、ちょっとだけ歳上の女性に憧れ、淡い思いを抱いた主 んの元に届いた知らせ。酪農家の娘さんの死一。死因は実習時牧場で働いてい
539	かめ	ヘルシー牧場	一般審査員G	18	18	19	17	15	外国人に乱暴され、それを苦にした自死。主さんの感じた怒りや悲しみ、憎しみといった感情は勿論、娘さんの父である牧場主のおじさんのそれは、主さんの比でないくらい激しいものだったに違いない。ただ、その怒りの矛先は、何の罪もないの外国人に向かっていったのは恐ろしくも悲しい。殺人鬼と化した牧場主のおじさの間がめちゃくちゃ怖いですね。タイトルのヘルシーは健康的なそれを連想させるが、HELL SEEだとは、意外というか、想像もしていませんでした。 87 牧場にミスリードさせられるお話ですね、シンプルながらしっかりとした構成でした。 肉骨粉用の粉砕機が出てきたあたりから嫌な予感はしていたのですが、予感が能
539	かめ	ヘルシー牧場	一般審査員H	6	5	7	5	8	中してもなかなか嫌な気分になりますね。個人的な好みとしてヒトコワ要素が強しよりゾクッとするので、その点は加点をしています。また、オカルト・ヒトコワのどっつかずの中途半端さがないので、お話としてのバランスがとても良いと思いました。自分の子供にひどいことをされたら親はどんな手を使ってでも復讐を望む気持ち痛いほどわかります。せめて牧場主のおじさんが少しでも救われていたらと思いす。ところで出来上がった肉骨粉は一体どうやって処理したんでしょうね?  【怪異というよりはグロ、ですね。怖さ、怪奇という点ではあまり感じられません。人恐ろしさはありますが。鋭さ、推写が気持ちままとに特化をなった。ため、反対に鋭さ
539	かめ	ヘルシー牧場	一般審査員	12	10	10	9	9	薄いですね。新しさ、実習先の牧場で起こった怪事件。舞台としては悪くないですが、物語の軸が安定しきれていない印象です。ユーモアさ、ここは厳しいですね。語の性質上。牧場の娘さんの身に起こった事と言い、その後の外国人実習生達の被害と言い。意外さ、主人公にも危険が及ぶなどの最悪の結末にはしなかったでしょうか。とは言え、消化不良ではありますが。  50 読んでいて、じわじわと背筋が冷えていくタイプの怖さがあってとても良かったでる最初はただの研修の話かと思わせておいて、少しずつ「何かおかしいぞ」という気が積み上がっていくのが上手い。特に、誰もいないはずの部屋で聞こえる妙な音
539	かめ	ヘルシー牧場	一般審査員J	18	18	18		18	や、消えていく研修生たちの扱いがあまりに自然すぎて逆に不気味で、読んでもの想像を勝手に刺激してくるのが怖い。高校生たちの気安い会話とのギャップがいていて、ラストの空気の重たさがより際立つ、後からじわ一っと来るタイプの良質なホラーでした。  89 地獄を見る牧場とは、言い得て妙だと思わせるトラウマになりそうな話でした。文章 も状況が想像しやすいようにかかれていたこともよかった。粉砕するほどの僧しみ取り憑かれてしまったかと思うと、とても悲しい気がするが、その後からのシリアルラーのような振る舞いは、非常に怖いと思った。
No 527	投稿者 淺月	タイトル際の峰子さん	合計 評価者 一般審査員A	150 怖さ 17	147 鋭さ 18	144 新しさ 17	ユーモアさ 15	139 意外さ 17	718
527 527	淺月	隣の峰子さん	一般審查員B	13	13	14		10	ころに収まった。人の「思い」と怪談とを上手く組み合わせた傑作と言えるだろう。  61 妾と正妻のドロドロの話で昔やっていた、昼ドラみたいやなと思いました。恨みとれていがみが溜まり続けて人を殺してしまう事が本当にあるとしたら呪いで殺してしまた人も普通じゃいられない状態になってるんだと思いました。男がどちらの人も選ず魂を縛りつけたまま解放しなかったのが原因なのか女の人が離れたくなかったが悪いのかはわかりませんが1人を選べないなら結婚はしちゃいけないと思いまた。  84 とても素敵な作品でした。登場する人物全てが悪いような、誰も悪くないような、ノタルジックな美しさに、心を打たれました。蜂子さんのエキセントリックな外見とは、
527	淺月	隣の峰子さん	一般審査員D	16	17	15	16	17	腹の、儚げな様子もとてもよかったです。文章がわかりやすく、ストレスなく読めたも好印象でした。正妻の苦悩や恨みにリアリティがあるのも、その恨みがいろんなになって現れたのも、納得ができて良い設定だと思いました。 Nさんが望んだよう主人公の女の子は、幸せに、自分の思う通りに人生を送れたらいいと思います。  81 悲しいけれどいいお話でした。妙齢の女性が戸建てで一人暮らしをしている理由一見理解しがたい習慣を受け入れてくれるご近所さん。細かいことですが、昭和い中頃の方が昭和の古き良き時代を感じられる時代のように思います。この方と交することで孤独な生活をしていた峰子さんの心の隙間を少し埋めたものの、深め
527 527	淺月	隣の峰子さん 隣の峰子さん	一般審査員E 一般審査員F	5 16	15	15		15	することで孤独な生活をしていた峰子さんの心の隙間を少し埋めたものの、深めしまい恨みを増幅させるきっかけになってしまったのではと感じました。愛情深い子さんと恨みだけで相手を「潰す」怪異との対比が個人的に好きです。  65 なんか、Nさんに腹立つ怪談ですね。誰も幸せじゃない、切ない終焉の余韻の中「Nさんが一番悪いじゃないか!」という怒りが湧きました。Nさんの告白シーンも、間の弱さが出ていて腹が立つのに理解もできてしまうのが嫌で良いです。昭和の気感と音楽が逆に新鮮に感じました。
-	淺月	隣の峰子さん	一般審査員F	16	13	16		16	人でもそれは表面的なイメージで、内面は優しかったり、凄く良い人である場合もる。峰子さんもそんな人だったのでしょうね。峰子さんの家のソファーに置かれていた赤ちゃんの人形には、本当に峰子さんの赤ちゃんの魂が入っていて、ずっと峰さんを守っていたのかもしれませんね。不倫は傷つく事はあっても、本当に幸せになれない。Nさんは峰子さんを大切にしたかった、と言っているけれど、結局は峰さんも本妻さんも傷のける事になってしまった。それは悲しい事ですね。  49 ノスタルジックな雰囲気が特徴的なお話でした。このお話の空気感が何とも言えたにしなみたいなものを感じます。誰も幸せにならないやるせなさや、人の身勝手さ
527	淺月	隣の峰子さん	一般審査員H	10	11	10	7	10	ある中で、逆に人との関わりが暖かい描写もあるのがまた一層切なくなりますね、い話としての怖さは控えめではありますが、お話としての見せ方が上手なお話だ思いました。最後の曲は洋楽に詳しくないのでこれかな?と思ったものを聴いて、ました。お話の中に出てくる音楽が解るとよりリアリティーが出て良いのですが、なが伝わらなくてお話のノイズに感じてしまう人もいるかもな、とも思いました。曲にいてもっと抽象的でもいいのかもしれません。 ************************************
527	淺月	隣の峰子さん	一般審査員	13	12	12	13	13	が、決定打に欠けると言いますか。切なさ、ほろ苦さの方が印象に残ります。鋭さ峰子さん、の抱えている傷にもと容赦なく切り込んだ表現が欲しいです。新しさも救われてはいない、が、一応の終結は見る、という所でしょうか。ユーモアさ、嶋さん、という存在そのものですかね。他の点では救いなさすぎで笑えませんが。意さ、怪異に居合わせた主人公に追撃が来るような展開にはならなかった点です。しいう場合、大抵主人公に話しの軸を持ってくるのに、更なる恐怖展開もってくる事多いので。  43 物語全体を通して、日常の隣に潜む不気味さや、子ども目線での生々しい恐怖がく伝わってきます。赤ちゃん人形の鳴き声や硝子戸に映る巨大な目など、非日常
527	淺月	隣の峰子さん	一般審査員J	17	15	18		17	
No 547	投稿者	タイトルオーアン、イエ	合計 評価者 一般審査員A	132 怖さ 18	148 鋭さ 16	152 新しさ 18	ユーモアさ	148 意外さ 15	715 書評  83 マジで助けない方がよかったと思う。いや、思う、とかじゃなくて、助けない方がよかった。結構怖いし、描写も上手い。自業自得系は怖さが何割か減になりやすい自業自得であるが故に、理不尽さとかも特になく、恐怖を感じる側に感情移入しにく、傍観者のこっちとしては怖くない。この怪談は、腐れ縁ポジションで巻き込まれ話にすることで、その問題を上手く解決している。とはいえ、助けなければよかっす
	赤戸青人赤戸青人	オーアン、イエオーアン、イエ	一般審査員B	13	14	13		13	話にすることで、その問題を上手く解決している。とはいえ、助けなければよかっ 話なので、そこは恐怖を滅じてしまっている。それと同時に、自業自得の話という で、物語に深みは特になく、新しい切り口ではあるものの、あまり鋭い切り口では い。  64 妊娠した人が自殺をしてお腹にいた子供が霊として父親に恨みをぶつけにきたの 分かるんですが少年の姿で現れるのは違和感がありました。サイトウがボコボコ されたのは主人公に取り憑いてしたんだとしたら、まだわかるんですがね。肌感で が主人公にはこれ以上何も無いと思いました。  83 サイトウの身勝手さが招いたとはいえ、恐ろしい話でした。サイトウの住居でおこ
		オーアン、イエオーアン、イエ	一般審査員C	17	18	18		15	怪奇現象の描写が、まるで実体験したようなリアリティさがあって良かったです。こなことが続いたら、精神的に追い詰められるでしょうね。サイトウのもとに現れるの見た目と発する言葉のたどたどしさにギャップがあるのが恐ろしさを強調していて、表現のテクニックがあるな、と思いました。また、その少年から主人公が排除べき敵と認定されてしまったようなのが、これから起こりうる更なる恐怖の予兆とし心を捉えました。サイトウと主人公、父親を憎む息子からどのような報復を受けるかい・続編を読み手が想像する楽しみが残された作品でした。
		オーアン、イエオーアン、イエ	一般審査員D 一般審査員E	18	17			16	83 クズが追い詰められていく様子は申し訳ないですが、少々気持ち良かったです。 イトウがおかしくなったのは精神的に追い詰められたからだけではないような気が て、女性の恨みの深さ、無念さが強く伝わってきました。最後に形として現れたも は、ナガノとその子どもだけではなく、それまでに光を見ることもなく命を奪われた どもたちすべての想いが集まっているように感じました。 フィジカルが強い胎児の幽霊が印象的でした。クズがボコボコになるシーンにスプ とした直後に、主人公が首の骨を折って殺すシーンに変わった瞬間、登場人物全 が気持ち悪くて良かったです。設定や導入の消えた胎児という展開など完成度か かった部分が多かっただけに、フィジカルで解決していく展開やオードはもったいな
547	赤戸青人	オーアン、イエ	一般審査員F	18	17	18	16	18	かった部分が多かっただけに、フィジカルで解決していく展開やオチはもったいな気もしました。  87 オーアン、イエが『お父さん、死ね』という意味だったとは、最後までわかりませんした。サイトウとナガノの間に出来た子供が、ナガノのお腹から消え、サイトウときんの前に五歳ほどの子供に成長した姿で現れたのは意外でした。はっきりした言で『お父さん、死ね』と言われ続けるのも怖いけれど、最初はその言葉の意味が対からなかったところで、ずっと意味不明な同じ言葉を繰り返し耳許で聞かされるの相当怖いだろうし、気が狂ってしまうのも頷ける。主さんは捲き込まれた形とはい
547	赤戸青人	オーアン、イエ	一般審査員G	18	18	13	16	17	サイトウの子供と思われるその霊(?)を突飛ばし、首を絞めてしまったのは自殺行為でしたね。後悔先に立たず、とはよく言いますが、命に関わるような後悔は出来ばしたくないですね。  82 何回か外国語のタイトルのお話があったので、こちらもそうかと思ったのですが、く違いましたね。ちょうど小さな子供がいるのでよりリアルにそのたどたどしい話しが再生されて切なくなりました。そして被害者女性の苦しみ、絶望感、幸福からの落を考えると、このお話は勧善懲悪といってもいいのかなと思いました。なので、人的には気持ちの晴れるお話でしたね。文章も最初は少しスローペースかなと思たのですが、後半になるにつれてリズムが早くなっていき、最後にしっかりと落と
547	赤戸青人	オーアン、イエ	一般審査員H	8	7	9	7	7	たのですが、後半になるにつれてリズムが早くなっていき、最後にしっかりと落と ころは読みやすくて良かったと思います。スローかなと思ったのはやはり説明が言 らしく書かれているからかなと思いました。その部分をより説明っぽくなく描けれて もっといいものになると思います。 *** たがらせようとし過ぎて却って怖く無くなっているように感じます。鋭さ、得体 知れない恐怖をもう少しシンプルに表現した方が良いと思います。その為、鋭さか 鈍っている印象です。新しさ、女癖の悪い男が相手を孕ませて不誠実な態度で追 詰め自死させてしまう。そして夜毎間こえる謎の声は腹の中にいた我が子だった 言ってはなんですが、正直、ありきたり過ぎます。ユーモアさ、の要素は無いと思
547	赤戸青人	オーアン、イエ	一般審査員	10	10	12	10	12	
547 No	赤戸青人投稿者	オーアン、イエタイトル	一般審査員」	19 149 怖さ	18 145 鋭さ	17 139 新しさ		15 143 意外さ	
521	速水静香	黒いペットボトル	一般審査員A	16	16	17	15	16	80 怪談に対するメタ的な視点もあって、面白い。あんな内容の投稿を読んだ後で、 の黒い液体を飲んでみる勇気はすごすぎるし、理解できない。まあ、飲まなきゃら にならんのだけどw。ブドウジースやドクターペッパーでした、ってわけにはいかな わけでしょう。飲んだ、というより、もしかしたら、「飲まされた」のかもしれない。儀 を行った瞬間から、恐怖はもう始まっていたのだ。どれどれ、俺もちょっとやってみ か。「まだある?」「まだある?」「まだある?」・・・・・・・・あれ、こんなペットボト あったっけかな。ちょっと飲んでみるか。ちょっとだけ。
	速水静香速水静香	黒いペットボトル	一般審査員B 一般審査員C	14	12	15 18		11	62 冷蔵庫に3回まだある?って聞くと新品のペットボトルが現れて始まっていくんですが心霊とかではなくて宇宙人を疑ってしまうような話ですね。主人公が見えてるもが幻覚とかなら呪いかなとは思うんですがなんとも掴みどころの無い話でした。 おンライン講義だったりSNSだったり・・・現代生活のリアルさを取り入れていて、ともしっくりくる作品でした。黒い液体の中に人間の体の一部らしきものが入っていのが、とても気持ち悪くて恐ろしかったです。また、それが「またあるよ」という言葉ともにどんどん蓄積され人の形を成したであろうことが、恐ろしすぎました。謎のケトボトルの味が、薬のようだったり鉄の味(血液?)だったのは非常にうまい表現
521	速水静香	黒いペットボトル	一般審査員D	14	17	17	18	13	思います。これから起こりうることを彷彿とさせ、併せて液体の不気味さも表している。秀逸です。冷蔵庫から出てくる「もの」が、主人公に与える恐怖・・・想像の余地残してあるのも良い設定だと思いました。  79 「意味が分かると怖い話」ではないのでは…?主人公の言葉に要約されてしまい文を読んでいないので言い切れませんが、比較的短い作品の中で怪異のきっかとなる部分で疑義が出てしまうと軸をどこに持っていきたいのか理解できませんでた。都市伝説的な流れ自体は気味が悪くて良かったです。デジタル機器をそこそ使いこなしている世代なのに見たことがない言語・ラベルを画像検索しないの?
521 521	速水静香	黒いペットボトル	一般審査員E 一般審査員F	10	15	15		10	少々気になるところではありました。  65 脳内再生がしやすい怪談でした。コミカルな描写と抑揚が多く最後まで飽きる事な 読めました。だるい大学生活からネット怪談へと繋がる導入がとても自然で良かっ です。呪いのロジックが少しが取足りない印象でしたが、都市伝説と現代SNSが上 融合した怪談として完成度の高い作品だと感じました。  87 これはなかなか新しいし怖いですね。ネットに流れている怪談話をありきたりな話 とバカにし、嘲笑する主さんが、ある日ちょっとした暇潰し、興味本位でネットで見
521	速水静香	黒いペットボトル	一般審査員G	13	12	14	14	13	意味がわかると怖い話を試してみる。そこから、あり得ないとバカにしていた怪異 験を自分も体験していく事になり、自分がこれまでバカにしてきた行為から孤独危 感じる様は憐れみさえ感じてしまう。それは霊の存在を全く信じてこなかった人が 霊スポットに行ってふざけた挙げ句、その後、不幸な目に遭うのと似ている。明ら に作り話だろうと思われる話でも、ある種儀式めいたものは試そうとは思わない。 こにはやはり何が起こるかわからない恐怖があると思うから。あるべきものがなれ たり、ないはずのものが現れたり。私は訳がわからないものに怖さを感じる。
521	速水静香	黒いペットボトル	一般審査員H	9	9	10		10	話でした。じわっと怖い感じなので、インパクトのある作品が立ち並んでしまうと、しても相対的に怖さが控えめになってしまうかなと思いました。お話自体はしっかした構成をされているので読みやすいですし、設定も解りやすくてすんなりとお話入ってきました。個人的には好きなお話です。一体その液体は何の目的で誰がとやって作られていて、なぜ伝播させる必要があるのか、考察が色々浮かびます。料は間違いなく人間なのだと思いますが、…。 47 怖さ、不気味さ、不可解さはおりますが、恐怖はあまり感じませんでした。肝心の異の表現が曖昧過ぎます。鋭さ、ここも弱いですね。主人公に怪異が起きていく過
<u> </u>	速水墊子	里! ハベー・・ ^・・	- An						程での文章に緩急があまり無いという印象です。淡々としていると言うか。新しさいペットボトル、というアイテムをネット怪談の核にもって来る的は新しいとは思いす。ただ、真偽の分からないネット上の投稿怪談を実行してしまい、結局自身も様する羽目になる、という大枠の部分はありきたりです。ユーモアさ、主人公が色々らせてて人間味が感じられます。それが故招いた現象と結果。その点ではユーモを感じます。意外さ、ペットボトルから、髪だの歯だの、気持ちの悪いものが出てきすが、結局それらは何なのか、正体が分からないままにラストのあの一文。嫌なれわり方でしたね。
521 521	速水静香速水静香	黒いペットボトル	一般審査員I	13	10			12	59 冷蔵庫という生活の核心にある場所が舞台になっていることで、じわじわと逃げりのない恐怖が広がっていくのが印象的だった。特に"黒い液体が戻ってくる"反復事象と、最後に含まれていた髪や歯の描写は、好奇心の延長で踏み込んでしまった人公の破滅を鮮烈に示している。一方で序盤の無気力な大学生活の描写が長く恐怖への導入がやや緩慢なため、鋭さはやや弱め。ただ、ネット怪談の"読んだ者巻き込まれる"形式にひとひねり入れた点は新しく、身近さと異物感のバランスが地よい後味の悪さを生んだ。  81 主人公の結末が気になることと、ネット界隈でのそれぞれの無責任さが際立って
No 546	速水静香 投稿者 いわぶちかつのり	黒いペットボトル タイトル 儀式	一般審査員J 合計 評価者 一般審査員A	18 142 怖さ 17	16 142 鋭さ 17	17 154 新しさ 17	137	17 134 意外さ 17	て、ある種の人怖的な要素もあって、よかったと思う  709  合計  書評  84 教授がとった行動は、客観的に見たら、冒険しすぎだけど、それだけ奥さんに会しかったのかな。ミステリーや恋愛の要素まであって、色々と楽しめる長編らしい怪だと思う。もうすこし、儀式について掘り下げてみてもよかったような気もするが、れば民俗学ミステリーに影響されすぎていると気がついて、怪談として見るとこの
546 546	いわぶちかつのり	儀式	一般審査員B	12	13	15		13	れは民俗学ミステリーに影響されすぎていると気がついて、怪談として見るとこのらいの評価が妥当かと思い直した。とりあえず最後に一言。江口は何がしたかっんや。  64 少し違和感のある所や表現がおかしい部分はありましたがストーリーは面白かっです。全く見当違いな儀式をしていたりするのは意外にリアリティがあるなと思っいましたが最後の葉月が儀式をやってしまった意味はわかりませんでした。  第7 其月は結局好奇心から逃れられなかったのでしょうか・・・。彼の末路が非常に悲かったです。また、江口とは何者だったのか。村の名前から察するに、平顔の儀
546	いわぶちかつのり	儀式	一般審査員D	15	13	17	17	13	行っていた村の関係者だと推察しますが、彼がなんの目的で、弥生の父親を騙し 儀式に参加させたのか・・その辺りを想像するヒントが少なく、個人的に消化不見 起こしています。全体的な設定は非常に面白いので、さらに細やかな設定がされ いると、作品の完成度が上がったのではないかと思いました。もしかしたら、文字 が足りなかったのかもしれませんね。  75 謎の儀式に魅入られてしまった人の末路は不幸なもの、という美しい定型にしった と当てはまる内容で、先は見えていても楽しめる方の内容でした。個人的に「。 多用が苦手でした。次に繋がる内容なのに句点ではなく読点が使われていたり「
546	いわぶちかつのり	儀式	一般審査員E	15	15	10		15	んで楽しむ」という点においては消化不良でした。謎の儀式、謎の代償、求めてし 人に広げる意味。すべてが謎だったものの、その先を知りたいと思わせる余韻が まりなかったのが残念です。  65 かなりの長編大作に、読了後の疲労感がやばかった作品です。無関係な人間が 番ひどい目に遭う、理不尽さが後味として重かったです。父親、教授)は「死者には いたい」という動機がまた理解できますが、江口は本当にどこまで関わっていたの がぼかされており、この作品の残酷さを支えていると感じました。謎がとけない点 好意的にとるかどうか難しいですね。かなりチャレンジしている内容だと思いまし
546	いわぶちかつのり	儀式	一般審査員F	18	17	17	17	18	87 大切な人を亡くした時の喪失感は痛い程よくわかる。もう会えないし、言葉を交れ事も出来ないから、ユタやイタコに頼ってでも声を聞きたくなる気持ちも非常によいかる。だけど、弥生の父は禁断の世界へと足を踏み入れてしまった。妻を生き返せようと試みたところが、その儀式は使者を蘇生させるようなものではなく、自分、顔から鼻や目等のパーツが無くなっていく、所謂のっぺらぼうと化してしまい、やっては死に至るという恐ろしいものだった。大学時代からの友人の江口が、どうやら式の動画を弥生の父に見つけるように仕向け、父を利用して何かの実験をしようしていたようだけれど、思っていた結果と違ったのだろう、自分が命を失う事にないたようだけれど、思っていた結果と違ったのだろう、自分が命を失う事にない。
546	いわぶちかつのり	儀式	一般審査員G	12	10	17	13	15	しまった。それを感じ取り、弥生にはもうこの件について調べるのを止める、と言いた葉月だったが、結局、彼もまた、好奇心には抗えなかったのか、同じ穴の狢になってしまったのは意外でもあり、残念でした。  67 弥生と葉月の青春要素は要らなかったように思います。普通に自分の父親の教子で、とてもお世話になったから失踪の件を一緒に調べたい、みたいなシンプルにでのほうが個人的にはお話のノイズにならなかったかなと感じてしまいました。優の日記を見るところも主人公たちの感想がちょこちょこ挟まれてしまうと怖い雰囲がぶつ切りになってしまうので、本来怖さが段階的に上がっていくはずが、一回
546	いわぶちかつのり	儀式	一般審査員H	6	7	9	5	7	リセットされてしまう感じがしました。起きた現象(顔面の喪失)の描写はおどろおろしくてよかったので、ちょっともったいない気がします。  34 怖さ、怪異からくる怖さ、と言う点ではほとんど感じられませんでした。人怖要素にりますが、鋭さ、物語の進行が淡々としていて父親の日記を読み進める件にも鋭しては欠けると思います。新しさ、正体の分からない儀式で死者を呼び出す、危険行為な分、怪奇を現すには使いやすいでしょうが、かなり慎重に扱わないとどうしも既視感が否めません。ユーモアさ、すみませんが、ここは皆無でした。私には。外さ、主人公である娘に害が及ばずに一応の解決を見た所でしょうか?とは言え
546	いわぶちかつのり	儀式	一般審査員	13	11	11	13	11	「夏川葉月」はああいう最後ですし。父親も、、ですから、筋がおおよそ読めてします。  59 父親の失踪と、ネットの片隅に転がっていた〈蘇生〉(儀式がつながっていく展開がても不気味で、一気に読み進めてしまいました。 弥生の混乱と、葉月のどこか達けたような好奇心が噛み合わない感じが、物語全体のざらついた不安を強めていていてす。  (儀式動画に出てくる"平らな顔"や、黒い霧が濁って形を変えていく描写が妙にリフで、説明されないまま置いていかれる感じが逆に怖い。
546 No	いわぶちかつのり	<b>儀式</b> タイトル	一般審査員J 合計 評価者	17 141 怖さ	15 134 鋭さ	143 新しさ		18 145 意外さ	で、説明されないまま置いていかれる感じが逆に怖い。 終盤の代償に関わるシーンはショックが強く、安易な怪異ではなく「触れてはいけかった領域に手を伸ばした」重みがしっかり感じられました。読み終わったあともしじわ怖さが残るタイプの話ですね。  82 悲しい儀式の話と人怖の要素がいいバランスではいっていて、さらに推理小説のうな雰囲気もあって、とても、面白かった  698  合計  書評
No 526 526	投稿者 アリアの流星群 アリアの流星群	ラズベリー	評価者 一般審査員A 一般審査員B	<b>怖さ</b> 15	鋭さ 16 13	15	14	意外さ 15 12	75 文章も整っており、構成もしっかりしている。だからこそ、この評価なのが申し訳ない。普通の呪われたギターの話である。それ以外の感想が特に浮かばなかった。言葉にしても、意外さにつながる謎の要素があるとかではないし、新しさも特にない。これだけしっかりした怪談を書いてもらっても、評価項目を満たしていなければ高得点はつけられない。だからといって、言い訳はできない。なぜなら、各評価項は、普通より面白い怪談を語ろうとすれば、必ず必要な要素だからである。
526	アリアの流星群	ラズベリー	一般審査員C	18	18			18	くだけでそんな状態になる感覚は想像できませんでした。儀式とかには音楽は必ありますがその音そのものが何か悪い物の力を増幅させてるのかなと思いました。まず題名の付け方が素晴らしいです。ギターの色も表現しつつ、実は花言葉がメンだという。文章もわかりやすく、サクサクと読めるのがとても心地よかったです。いのギターが出来上がる工程も記載されていて、とにかくストレスなく読めました。人的に一つだけ違和感が残ったのは、ラズベリーを演奏すると現れる女性です。の女性がなんなのか、それがわかる記述があると更にスッキリしました。怪現象はピックアップという部品が原因のようですが、この部品を作り上げた職人の執念か女性となって現れたのでしょうか。そこが知りたかったです。
526 526	アリアの流星群アリアの流星群	ラズベリー	一般審査員D 一般審査員E	10	12	16		12	女性となって現れたのでしょうか。そこが知りたかったです。  67 ラズベリーの花言葉から広がった話のような印象を受けました。日くがあるわけてないのに意図せず呪いのアイテムとなってしまったギターのエピソードが乏しく、アラー作品としてなかなか感じられませんでした。髪を振り乱している女がどうしてドバンしているようにしか思えませんでした  60 設定がブレない軸の強さを感じる怪談に感じました。登場人物が多いですが、呪であるギターを中心に上手くからめられており、構成力の高さを感じました。演奏シーンの描写も生々しく、音圧や指板の感触まで伝わってくるようでした。個人的
526	アリアの流星群	ラズベリー	一般審査員F	17	16	17	17	16	は、主人公の「自分もラズベリーに近づきかけている」危うさをもう少し読みたいと じました。  83 ラズベリーの花言葉なんて初めて知りました。薔薇は有名で知っている人も多い 思いますが、深い後悔ですか。発想としては面白いと思いますが、ギターを作 お爺さんがラズベリーの花言葉を知っているかというところで、ちょっと無理がある。 うな気もしなくはないですが、そんな事を言うのは野暮でしょうか。昨今、呪物がこ ムになっていますが、取り憑かれたように我を忘れてずっと弾いてしまうギター そして、そのギターを弾き続けると、女の声が聞こえるようになり、やがては命を覚
526	アリアの流星群	ラズベリー	一般審査員G	7	10	14	10	8	してしまう。怖いですね。主さんは命が助かって良かったです。お爺さん、ギターを作った事を後悔していたのなら、最後に買い取りを体頼したりして犠牲者を増やするな事はしないで欲しかったけど、それも操られていたのかもしれませんね。そしてこまさんが行くように仕向けられていたのかもしれないですね。 小説としてはよくできているとおもいましたが、怪談としての怖さについては控えるお話でした。どうしてもほかの作品でパンチの強いものがあると、読み物としてのオリティが高くても、怪談としての存在感が薄れてしまいます。設定作りやお話の成は良かったと思うので、例えば日常のシーンを少し削って、オカルトとしてバン
526	アリアの流星群	ラズベリー	一般審査員H	9	8	9	6	8	のあるシーンや会話を追加するか、より強く印象付けるために、一番際立たせた部分の肉付けをもっとやってみるなどをしてみると、もっと怖くなったかと思います情さの演出についてのクオリティがもっと高くなれば、よりいいお話になったと思しす。  40 怖さ、気を衒い過ぎです。それに話しの流れが分かりづらい。ラズベリー、と呼ばるギターがどれなのか分からず混乱します。これでは怖さは感じません。鋭さ、主公に迫り来る怪異に今ひとつ不気味さや、緊迫する部分が欠けているように思じす。新しさ、呪いの?アイテム。その妖しさに魅了される人々。常套手段だと感じ
526	アリアの流星群	ラズベリー	一般審査員	13	12	12	13	11	す。新しさ、呪いの?アイテム。その妖しさに魅了される人々。常養手段だと感じた。ユーモアさ、ここも特には感じられません。意外さ、敢えて挙行るとすれば、主公が取り憑かれるだとか霊的に被害に遭う事は無かった点でしょうか。ただ、ラスリー、と呼ばれるギターが結局何なのか正体が分からないままに終わるのが、マナスに働いてしまっているように感じます。  61 "呪われた赤いギター"という王道の題材を扱いながら、青春のワクワク感と音楽の情熱が物語全体に溶け込み、読後に独特の余韻が残各怪談だった。特に、专"呑まれる"描写や、小フーガ短調が狂気の導入音になっていく展開は印象が強し一方で、ギターの来歴や笛田の失踪が丁寧に積み重ねられていくため恐怖は穏
526	アリアの流星群	ラズベリー	一般審査員J	17	16	16	135	15	かで、鋭さや意外性は控えめ。ただ、その代わりに"ラズベリー=深い後悔"という 徴が静かに効いていて、物語全体を一つの悲しい旋律のようにまとめ上げている ギターを愛する気持ちがあるほど、より怖く感じるタイプの良作だと思う。 花言葉になぞらえた呪いのギターの話は、とても面白かった。歴代の持ち主も作 手も深い後悔というとろこで、最後に終わるという綺麗な終わり方もよかった。した ながら専門用語がわからない人には、伝わりづらいので、そこが少し残念だった。 666
No 528	投稿者 深山隨園	タイトル姉	評価者 一般審査員A	怖さ 16	鋭さ 16	新しさ 16	ユーモアさ 15	意外さ 16	合計 書評 79 文章・語彙が整っている。しかし、残念ながらそこは評価の対象ではない。評価項についてそれぞれ指摘してみる。怖さは、まあ、普通である。これは、新しさや切の鋭さとも関連していて、よくある話を書いても、見慣れているが故に、怖くない。募されてきた他の怪談と比べて斬新であれば、怖いと感じる可能性は高まる。ユモアは特に感じなかった。話の構成も普通だが、起承転結がよくまとまっているとう。全体として、もう少し冒険してみてもよかったと思う。
528 528	深山隨園深山隨園	姉	一般審査員B	10	13	14		13	62 話の内容が薄くて情報があまり無かったのでNの家のことや家族のこと、小人のが全部、謎すぎて何の考察も出てこない話です。何度も読み返してわかる話なんしょうかね。  81 Nの存在が終始作品に不気味さを与え、キャラクター作りが成功した作品だと思いした。特に体は大きいのに色白なNの容姿の設定が不安的要素となり、気持ち悪を感じさせられました。小人が出てくる設定も面白いのですが、小人とNの姉の関性が明瞭でないのが、非常に残念でした。また、薪のくだりはなくともよかったと思
528 528	深山隨園深山隨園	姉	一般審査員D 一般審査員E	14	12			15	ます。主人公の家に薪が積まれていなくても、Nのお父さんの会社が火事になる。 うシチュエーションには矛盾がないと思うからです。Nが主人公の家から帰る時に えた女性と、小人の関係性が不明瞭なのがかえすがえすも残念です。 34 謎が多いものの、あまり考察が進みませんでした。散りばめられた怪異と、綿々と いている日常の対比を見せようとしているのかもしれませんが流れがぶつ切りに なってしまい、全体的にまとまりがない作品のように感じてしまいました。 60 「人怖」のような「不思議体験」のような「なにこれ」などなど詰まっているので、最 まで楽しく読めました。人怖と怪異譚の狭間をずっと歩かされるような感覚が読者
528	深山隨園	姉	一般審查員F	16	15			17	まで楽しく読めました。人怖と怪異譚の狭間をずっと歩かされるような感覚が読者は難解に感じてしまうかもしれません。「なんとなく気味が悪い」という感触が残るしを楽しむ作品のような気がしました。  79 怖いというよりは、不思議というか、謎の多いお話。Nの家に行った時、トイレからび出してきた小人は何者だったのだろう?主さんの家に遊びに来たNが見た、帰時にNと並んで歩く白いワンピースを着た髪の長い女性はNのお姉さんなんだろり思うのだけれど、写真を見せられた時、主さんにはそれが小人に見えた。それはいう事だろう?小人のいたずら?写真に写っていたのはNと並んで話しながら歩
528	深山隨園	姉	一般審査員G	9	10	10	13	12	ていた女性なんだろうと思う。小人とお姉さんの関係は?事実はわからないけれ もしかしたら、亡くなったNのお姉さんが、心の中ではNを疎ましく思ったりする主さ にちょっとしたドッキリを仕掛ける意味で小人を使ったのかもしれない、とも思いま た。  54 度重なる怪異に見舞われる、それが結局なんなのかは闇の中、不気味な雰囲気 終始あるそういうお話でした。不気味な雰囲気の作り方はとても良くて、N君の得 の知れない感じや、どことなく不気味な感じの子なのかなというのが伝わってきま す。そういった丁寧な書き込みはお話の中で粘度のある空気感を出してくれてい
528	深山隨園	姉	一般審査員H	6	6	8	7	9	す。そういった丁寧な書き込みはお話の中で粘度のある空気感を出してくれていす。ただ、終わり方がちょっと乱暴に感じてしまいました。不気味な雰囲気を一番事にされてるとこは伝わるのですが、それだけに特化してしまうと結局どこを一番調したいのかが薄れてしまうように感じます。不可解というのは怖さを引き出すの重要な要素ではありますが、もう少し明確なものがあっても良かったかなと思います。  36 怖さ、全く伝わってこなかったです。何をどう伝えたかったのか、表現したい怖さと何か、理解できませんでした。小人にしろ、Nの姉にしろ、もっと恐ろしい存在とし
528	深山隨園	姉	一般審査員	11	11	11	12	12	明確にしても良かったのでは?鋭さ、軸が曖昧で、かつ状況の説明に終始していため、鋭さに欠けます。新しさ、謎の陰気な雰囲気の転校生。その家の不気味な在。いないはずの姉の存在。どれもありがちです。ユーモアさ、もこれといって感しせんでした。意外さ、小人の存在がNには見えておらず、どうやら亡くなった姉らし事、何故か主人公には小人に見えていた、という点でしょうか。  57 この物語は、日常のすぐ隣にある"説明のつかない気味悪さ"が静かに積み重な「読み終えた後まで冷たい余韻を残す怪談でした。特に、小人の異様な登場と、翌にはそれを完全に忘れてしまうという"記憶の断絶"が強烈で、恐怖の質そのもの
528	深山隨園	姉	一般審査員J	15	16	15	12	18	他の怪談と一線を画しています。また、N自身の影のような存在感、遮光カーテン開ざされた家、突然現れる姉らしき白い女など、細部がじわじわと不穏さを増幅しいきます。最後に明かされる姉の写真と、小人との結びつきがまったく説明された点も、逆に恐怖を深める効果を生んでいました。静かで重く、独創性と不気味さか立つ秀逸な怪談です。  76 不思議で、薄気味悪い話がテンポよく展開されていたのは、よかったと思う。最後小人とよくわからない女性は、家族に取り憑いてしまったナニカなんだとも思わせつ、主人公の自宅に積まれた薪の意味が不思議になったままであるところも、よ
No	投稿者	タイトルクローゼット	合計 評価者 一般審査員A	122 怖さ 15	132 鋭さ 15	131 新しさ 15	ユーモアさ	140 意外さ 15	かった。  658  合計  書評  75  普通の怪談。ただただ、普通の怪談だった。「いや、お母さんにやられたんかい! というつっこみはあったが、それ以上は特に感想が浮かばない。文章はあまり整ていないが、そういうところは私は減点対象にはしていない。本当に最低限、普通
No 520	ミンショル・イッチョ	'							怪談を語ることはできている、という感じである。ここから語りの工夫・アレンジ次質

